

生物多様性

より適切な保全策を

県専門部会 委員から注文相次ぐ

リニア中央新幹線の南アルプストンネル（静岡市葵区）工事を巡り、県が二十四日に開いた生物多様性専門部会。委員からは、JR東海の具体的な環境保全策を評価する声が出る一方で、より適切な対策を求める注文も相次いだ。主な委員の質問や意見とJRの回答は次の通り。

（中川絃希）



（難波副知事）

JR 今後電気を流して地下水の状態などを把握する調査をしていく予定。データを示して回答したい。

— 地下水位の低下が見られる場所を他にも示して（鶴飼一博県立農林環境専門職大准教授）

JR 今回示したのはJRが考えた候補地。意見を伺いながら決めていきたい。

■南アルプス保全

— ライチョウの保護のために「発見したら報告する」では内容がない（三宅隆泉自然史博物館ネットワーク副理事長）

JR 専門家に相談しながら鳥類の保護を進めているが、専門性が高いので協力できるところがあれば話を伺いながら進めたい。

— 単なる工事する補償ではなく、日本の環境保全を重視するという企業としての姿勢を文書に明示すべきだ（岸本年郎ふじのくに地球環境史ミュージアム教授）

■沢ごとの環境保全策

— 今回は、湧水低減のための薬液注入の詳しい説明があった。ただ効果の大きさが分からない（森下祐一静岡大客員教授）

JR 条件によって異なるため、今後現地のデータを集める中で考えていく。（地表から遠い）土被りが大きいトンネル区間では水圧が高く、低減が技術的に難しいといわれている。

— JRが示した、南アルプスに多数ある沢ごとの月平均流量では、生物への影

響は測れない。また地下水と降水の量を分離して評価を（難波喬司副知事）

JR 計算では日ごとの数値を使っており、それを示したい。地下水と降水を分けて考えるべきだという意見も考慮し進める。

— 地表と地下の水のつながりを見る化学分析は、その判断の基準を定めるべきだ（島田知彦愛知教育大准教授）

JR どういう指標でやるか明示してやっていきたい。

■植物への地下水位低下の影響と対応

— 稜線沿いの植物の状態を見るためのデータは示されておらず、今後推定が求められる（増沢武弘静岡大客員教授）

JR 成分分析などで地下水が表流水とつながっているとか分ければ対策が必要。結果を受けて対応したい。

— 計算上では、地表からすぐ近くに地下水がある場所もある。やはり地下水位低下の影響の検討が必要